

I 教育の充実
1 学力、体力の向上

(2) 異文化理解と外国語能力の向上 <<施策2>> 高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- 「青少年県民意識調査」(2020(令和2)年度)では、小学生・中学生の7割、高校生・大学生の6割が、海外留学や海外で仕事をしたいと思っておらず、その理由としては、小・中・高校生及び大学生の全てで「語学の自信のなさ」が最も多くなっています。
- 将来、子どもたちがグローバル社会において活躍するために必要な実践的な英語力を身に付けるには、4技能5領域(聞くこと・読むこと・話すこと [やり取り・発表]・書くこと)を総合的に育成することが重要です。

<施策の方向>

- 子どもの異文化理解を深め、国際感覚を高めるため、英語でのコミュニケーション等による異なる文化背景をもつ人々と英語を通して触れ合う体験活動を推進します。
- ネイティブ英語教員の配置や英語以外の教科におけるイマージョン教育の実施、ALTの効果的な活用等により、生徒の高度な英語力の育成を図ります。
- グローバル化に対応できる人材育成を推進するため、英語によるディベートやプレゼンテーション等、英語を用いた活動を通して、コミュニケーション能力を育成するとともに、ICTを効果的に活用する等、英語授業における指導方法の改善・充実を図ります。

令和8年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 英語教員の英語力向上を図るとともに、4技能5領域(聞くこと・読むこと・話すこと [やり取り・発表]・書くこと)を総合的に育成する授業改善を進め、グローバル化に対応した英語教育の充実を図ります。
- ◇ 一人一人の理解度に合わせた言語活動を充実させるため、生成AIを活用した新しい学習モデルを構築し、生徒の英語力向上を図ります。
- ◇ 児童生徒の異文化理解を深め、英語コミュニケーションへの意欲や英語力を高める取組を推進します。
- ◇ 未来を担う高校生が海外に目を向ける契機となるよう、留学支援の充実に取り組み、将来、世界で活躍する人材を育成します。

令和8年度 主な取組・事業

取組・事業名	概要
グローバル化に対応した英語教育の推進 ＜重点事業2＞	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校において英検ESG^{注1)}の実施、中学校において英検IBA^{注2)}の実施や英語スピーチコンテストを開催し、英語力の高い児童生徒を育成します。 ・中学校において、外国語科授業力向上実践講座を実施し、言語活動を中心とした質の高い授業を実践できる教員を育成し、外国語科の授業改善を行います。 ・中学生の外国語能力の向上のために宿泊体験型英語プログラム「イングリッシュキャンプ」、AIアプリを活用した英語授業モデルの実践的研究を実施します。 ・高等学校において、外国語指導助手（ALT）の配置に加え、英語以外の教科の内容を英語で指導できるALTスペシャリスト（ALTS）を、イマージョン教育の推進等により世界を舞台に活躍する人材育成を教育活動の特色とする学校に、また、高い指導力を有するネイティブ英語教員（NET）を英語科設置校等にそれぞれ配置し、実践的な英語コミュニケーション能力を育成します。 <p>さらに、英語の授業等の改善・充実を図るために、ALTS及びNETによる公開授業や研究協議を行うとともに、生成AIの活用についての研修会を実施します。</p>
海外留学促進事業の実施 ＜重点事業2＞	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生を対象に、海外の企業や大学等で最先端の知識・技術を学ぶハイレベルな研修（シリコンバレーコース）と、海外企業（現地法人、海外支店等）における職場体験（海外就業体験コース）などの短期留学研修プログラムを実施します。 ・より良い福岡県の実現に向けた取組や自らの興味・関心に基づいて作成したプログラムにより探究型海外留学を行う高校生等への支援を実施します。 ・世界を舞台に活躍し、国際社会の持続的な発展を支える志を持った優秀な人材を育成するために、海外留学に関する情報提供を行うとともに、留学助成金を給付し、経済的な支援を行います。
AIと創る「書く」「話す」英語学習モデルの構築 ＜重点事業2＞	<ul style="list-style-type: none"> ・九州大学が開発した生成AIライティング評価システム（CLaLA）を活用した英語ライティング指導を実施し、そのデータを分析することで学習モデルを構築します。 ・生成AIを使ったスピーキングシステムを活用した1対1のスピーキング練習及びスピーキングテストによる効果の検証と分析を行います。

指標

指標	指標の概要	現状値	目標値
生徒の英語力	中学校卒業段階でCEFR ^{注3)} A1レベル相当以上を達成した生徒の割合	61.1% (R6年度)	60% (R8年度)
	高等学校卒業段階でCEFR A2レベル相当以上を達成した県立高等学校生徒の割合	52.6% (R6年度)	60% (R8年度)

注1) 英検ESG：日本英語検定協会が提供している、メモや短文を読むこと、クイズや短い話を聞くことなど、小学生の英語力を測定するための選択式試験
 注2) 英検IBA：日本英語検定協会が提供している、英検準1級～5級までの英検級を目安として英語力を測定するための「読むこと」「聞くこと」の記述式試験
 注3) CEFR：語学力を評価する国際的な基準。6つの外国語習得レベル(A1、A2、B1、B2、C1、C2)があり、英検3級程度はA1、英検準2級程度はA2とされている。